枕崎発！日本初の夢を乗せて

北海道滝川市の池田享さんがグライダーで日本縦断

池田享さん（59）

鹿児島から北海道までグライダーによる国内初の日本列島縦断を目指し、3月31日に枕崎空港を飛び立った滝川スカイスポーツ振興協会常務理事の池田享さんが、最終目的地の北海道滝川市に4月23日到着し、日本縦断を成功させました。

天候不良で出発が2日延びた3月31日、雲一つない快晴に恵まれました。

出発に際し、枕崎空港では、日本初のグライダー日本縦断への挑戦を見送ろうと、別府保育園の児童や南薩飛行クラブのメンバー、市民など150人余りが参加し、セレモニーが行われました。

池田さんは、瀬戸口嘉昭枕崎市長から滝川市長への両市の友好を願う親書を手渡され、「枕崎の人たちにはとても良くしてもらい感謝している。みなさんの気持ちを18メートルの翼に乗せて、無事飛んできます」とあいさつ。また、この飛行が25年前からの夢という池田さんは、子どもたちに「努力すれば、夢は必ずかなう。この中から一人でもパイロットになる子が出てほしい」とエールを送り、最初の目的地である広島市に向け旅立っていきました。

グライダーは全長7メートル、両翼18メートルの1人乗りで、離陸時にエンジンを使用する以外は上昇気流を利用して無動力で飛行。随伴機（軽飛行機）の補助を受けながら、初日の行程約500キロを飛行し、午後4時45分に無事、広島西飛行場に到着しました。

その後、天候に左右されながらも着々と北への飛行を続け、飛騨、長野、福島、花巻、青森の空港などを経由。そして、出発してから24日経った4月23日、ついに滝川市の「たきかわスカイパーク」に到着し、約2140キロ、延べ7日間飛行の日本縦断の快挙を成し遂げました。

飛行船もチャリティーで日本縦断へ

小児がん患者への支援キャンペーンで日本縦断を行う飛行船「ニッセンチョッピー号」が4月20日、枕崎空港に到着しました。

21日には見学会が行われ、別府小学校や市内の保育園児など約300人が訪れました。

グライダーの普及を目指す池田さんは、出発前「この日本縦断を手始めに、南の枕崎と北の滝川市の両市民による空の交流を深めてほしい。枕崎もこんな立派な空港があるので、これを利用しない手はない」と枕崎空港の活性化にエールを送りました。

平和祈念展望台「第二艦隊追悼式」

戦没者を慰霊し平和への決意を新たに

戦艦大和をはじめとする第二艦隊の追悼式が4月7日、平和祈念展望台奉賛会（畠野宏之会長）の主催により、火の神公園内にある平和祈念展望台で行われました。

今年は、前日に行われた第二艦隊と輸送船「富山丸」の沈没海域での洋上慰霊に参加した170人も加わり、全国から参加した遺族など合わせて約550人が集い、戦没者の冥福を祈りました。

式では、洋上慰霊団を代表し、巡洋艦矢矧（やはぎ）の士官だった池田武邦さんが「洋上慰霊は当時と同じ荒天で、昔の記憶がよみがえった。次の世代が水底に眠る英霊の心を深く理解し、何をすべきかを考えることが大事」と平和を呼びかけました。

また、遺族であり元海軍学校教官の高田哲男さんは「弟が大和に乗船し、戦死した。この枕崎の地に碑を建てていただき追悼式を開催されることに感謝している。追悼式には、私たちの体力が続く限り参加したい」と話していました。

昭和20年、第二艦隊は10隻で沖縄決戦に向かう途中、火之神から約200キロ南の東シナ海で猛攻に遭い、戦艦大和など6隻が沈没し3，700人余りが亡くなられています。

参加者全員が献花し、冥福を祈る

掃海艇乗組員も式に参加

この追悼式に合わせ、掃海艇「うくしま」と「なおしま」が枕崎港に寄港し、乗組員が式へ参加したほか、一般市民を招いて体験航海や艇内見学などを行いました。

この掃海艇には枕崎出身の俵積田勇樹海士長（鹿児島水産高校卒）も乗船。

俵積田さんは、「追悼式に参加でき光栄。この仕事は厳しい面があるが、やりがいがある」と話していました。

俵積田勇樹海士長（25）

植え付けを行った「まちの駅」のメンバーなど

独自ブランド焼酎で情報発信を！

「まちの駅」が焼酎用のさつま芋を植え付け

市内の店舗などでつくる「まちの駅南薩ブロック」のメンバーら25人が4月29日、独自ブランドの焼酎を造るため、さつま芋の植え付けを行いました。

この取り組みは、枕崎でしか手に入らない焼酎を造り、南薩をPRしようと企画されたもので、メンバーでもある薩摩酒造明治蔵のサザンファームの畑、1，000平方㍍に植え付けました。

さつま芋の品種はコガネセンガンで、10月に収穫を行い、「新酒まつり」当日に焼酎仕込み。販売開始は来年1月ごろになるということで、初回1，500本の販売を予定しています。

「まちの駅」は、誰でも気軽に立ち寄ることができ、地域に密着した情報の提供や交流ができる施設のネットワークとして県内各地にあり、市内では9店舗が加盟しています。

今後は焼酎造りのほか、お菓子の開発など、独自ブランドの商品開発を進めるということです。